

Title	リサイクルにおける価格と企業行動-再生資源活用メカニズムの探求-
Sub Title	
Author	石川禪(Ishikawa, Yuzuru) 姉川知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1146号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1146">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1146</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

石川 禅

主査 姉川 知史

副査 藤枝 省人

太田 康信

所属

姉川 知史 研究室

## リサイクルにおける価格と企業行動

### —再生資源活用メカニズムの探究—

本研究は、地球環境問題の解決が声高に叫ばれながらも、その本当の実現のためには一体どのような方法や政策が最も効果的なのだろうか、と言う問題意識から始まった。日本社会においては、1970年代の公害対策防止法の施行以来、常に環境問題に対しては企業に一定の環境基準をクリアするように定める直接規制がとられてきた。しかし、これでは企業ごとの経済的な負担にばらつきがありすぎ、真に社会的効率性が達成されているのか疑問が残っている。逆に、欧米では環境問題の解決のための環境税や排出権取引などの経済的手法の導入が進んでおり、その即時効果性も注目されている。

一方、資源リサイクルという問題に着目すると、ここには再生資源価格が処女原料価格を上回るために再生資源の循環我が進まないという経済性の壁が立ちはだかっており、企業の行動原則による部分最適化によって社会全体の環境保全という全体の最適化が実現できずにいる。

そこで筆者は、「再生資源価格が処女原料価格を上回らないための処女原料消費税（Virgin Tax）なる税制によれば資源リサイクルの問題が解決できる」という仮説を設定し、この企業行動への有効性と現実社会への適合性を検証してみたいと考えた。

研究事例としては、処女鉛価格の急落でリサイクル率が低迷しているバッテリーを取り上げ、処女鉛の消費に対して課税を行った場合の、業界内の企業行動を分析する。同時に、企業行動を再生資源の購入へと導くために最も好ましい課税率を、システムダイナミクスによるシュミレーションで感度分析しながら、検討していく。